

StorageTek Enterprise Library Software

ACSL S サーバーへの XAPI Client インタフェースリファレンス

E74276-01

2015 年 9 月

StorageTek Enterprise Library Software

ACSL S サーバーへの XAPI Client インタフェースリファレンス

E74276-01

Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporation およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java はオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	9
対象読者	9
ドキュメントのアクセシビリティについて	9
関連ドキュメント	9
表記規則	9
構文規則	10
フロー線	10
必須選択	10
オプション選択	11
デフォルト	11
繰り返し	11
キーワード	12
変数	12
代替値	12
オプション	12
区切り文字	12
範囲	12
16 進数の範囲	12
10 進数の範囲	12
HSC 形式の VOLSER 範囲	13
ACSLs 形式の英数字の volser 範囲	14
リスト	15
空白スペース	15
1. 概要	17
ACSLs サーバーへの XAPI Client インタフェースとは	17
XCMD インタフェースコンポーネントとは	18

2. XCMD コマンドの規則	19
3. XCMD XAPI 構成および管理コマンド	21
DEFINE POOL_Name	21
説明	21
構文	21
パラメータ	22
例	22
DEFINE POOL_Access	22
説明	22
構文	23
パラメータ	23
例	24
DELETE POOL_Name	24
説明	24
構文	24
パラメータ	25
例	25
DELETE POOL_Access	25
説明	25
構文	26
パラメータ	26
例	26
SET POOL_Name	26
説明	27
構文	27
パラメータ	27
例	29
QUERY POOL_Name	29
説明	29
構文	29
パラメータ	30

例	30
QUERY POOL_Access	30
説明	30
構文	31
パラメータ	31
例	31
4. XCMD XAPI サーバーオペレータコマンド	33
LOG	33
説明	33
構文	33
パラメータ	34
例	35
LIST	35
説明	35
構文	35
パラメータ	36
例	37
MSGLVL	37
説明	37
構文	38
パラメータ	38
例	39
TRACE	39
説明	39
構文	39
パラメータ	39
例	40
5. XCMD での XAPI ユーザー要求と HSC/VTCS コマンドのサポート	41
サポートされている XAPI 要求、コマンド、およびパラメータ	41

SMC または VM Client の Route コマンドを使用した ACSLS XAPI サーバー へのコマンド発行	44
6. ACSLS XAPI サーバー制御変数	47
ACSLS XAPI サーバー制御変数の設定	47
ACSLS XAPI 変数の説明	48
XAPI_PORT	48
XAPI_WORK_PATH	49
XAPI_LOG_SIZE	49
XAPI_LOG_FILE_NUM	49
XAPI_TRACE_SIZE	50
XAPI_TRACE_FILE_NUM	50
XAPI_STARTUP_FILE	50
XAPI_TAPEPLEX_NAME	51
 索引	 53

表の一覧

5.1. XCMD でサポートされている XAPI 要求および対応する HSC/MVS コマンド	41
--	----

はじめに

このドキュメントは、XAPI サポートがインストールされている Oracle StorageTek ACSLS サーバーの構成情報および管理情報を提供します。

対象読者

このドキュメントは、ACSLX XAPI サーバーの構成および保守を担当するストレージ管理者、システムプログラマおよびオペレータを対象としています。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>) を参照してください。

関連ドキュメント

詳細は、Oracle StorageTek ELS リリース 7.3 ドキュメントセットおよび ACSLS リリース 8.4 ドキュメントセットの次のドキュメントを参照してください。

- ACSLS 8.4 管理者ガイド
- ACSLS 8.4 インストールガイド
- ACSLS 8.4 クイックリファレンス
- ELS 7.3 コマンド、制御文、およびユーティリティーリファレンス
- SMC の構成および管理 7.3
- VM Client インストール、構成、および管理ガイド

表記規則

このドキュメントでは、次のテキスト表記規則を使用しています。

表記規則	意味
太字	太字は、アクションに関連付けられたグラフィカルユーザーインターフェースの要素、またはテキストや用語集で定義される用語を示します。
斜体	斜体は、マニュアルタイトル、強調、または特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
モノスペース	モノスペースは、段落内のコマンド、URL、例のコード、画面に表示されるテキスト、またはユーザーが入力するテキストを示します。

構文規則

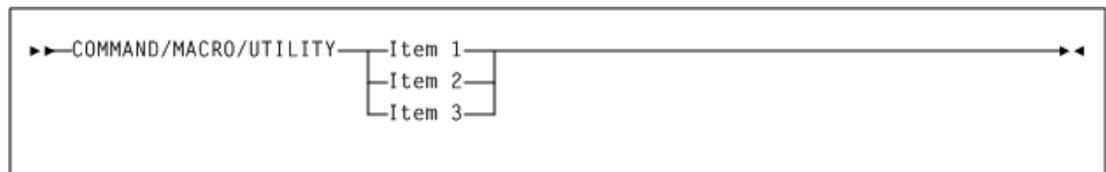
注記:

次の構文規則は、XAPI および XCMD 構文にのみ適用されます。ACSLs のコマンドおよびユーティリティに適用される構文規則については、『ACSLs 管理者ガイド』を参照してください。

構文フローダイアグラムでは、次の表記法を使用します。

フロー線

構文ダイアグラムは、水平の基本線と、水平/垂直の分岐線、コマンドを表すテキスト、制御文、マクロ、またはユーティリティで構成されます。ダイアグラムは、左から右、上から下へ読み取ります。矢印はフローと方向を示しています。例:



必須選択

分岐線は、1つを選択する必要があることを示します。選択項目の1つが基線上にある場合は、選択項目をどれか1つ必ず選択してください。例:



オプション選択

最初の選択項目が基線より下にある場合は、項目の1つをオプションとして選択できます。例:



デフォルト

デフォルト値およびパラメータは、基本線より上に表示されます。例:



一部のキーワードパラメータには、スタックからの値を選択できます。スタックにデフォルト値が含まれている場合、選択対象のキーワードと値は基本線より下に表示され、これらのキーワードと値がオプションであることが示されます。デフォルト値は、キーワード線より上に表示されます。例:



繰り返し

繰り返し記号は、複数の選択が可能であること、または1つの選択を2回以上実行できることを示しています。次の例では、繰り返しの区切り文字としてカンマを使用する必要があることを示しています。例:



キーワード

コマンドキーワードは、すべて大文字で表記するか、大文字と小文字を組み合わせで表記します。コマンドの大文字/小文字が区別されていない場合は、大文字と小文字の組み合わせが使用され、この場合の略字表記には小文字が除外されます。

変数

イタリック体は、変数を表します。

代替値

パラメータの代替値は、垂直バー (|) で区切ります。

オプション

大括弧 [] は、コマンドパラメータがオプションであることを示します。

区切り文字

構文図で、項目とともにカンマ (,) やセミコロン (;) などの区切り文字が示されている場合は、文の一部としてこれらの区切り文字を入力する必要があります。

範囲

範囲を表す場合は、同じ長さでデータタイプを有する 2 つの要素 (両要素も範囲内に含まれる) をダッシュで結んで表します。最初の要素は、必ず 2 番目の要素より小さくしなければなりません。

16 進数の範囲

16 進数の範囲は、2 つの 16 進数で構成されます (例: 0A2-0AD または 000-0FC)。

10 進数の範囲

10 進数の範囲は、2 つの 10 進数で構成されます (例: 1-9 または 010-094)。先行 0 は不要です。10 進数の部分は増分域です。増分部分の文字位置は 2 つの範囲要素で一致していなければなりません。増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。

HSC 形式の VOLSER 範囲

HSC 形式の数字の VOLSER 範囲 (vol-range) は、1桁から6桁の10進数部分を
含む2つのVOLSER要素で構成されます(例: ABC012-ABC025 または X123CB-
X277CB)。10進数の部分は増分域です。次の制限が適用されます。

- 増分部分の文字位置は2つの範囲要素で一致していなければなりません。
- 増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。
- 範囲要素の複数箇所を増分することはできません。最初の要素が111AAAの場合、2番目の要素で112AABと指定することはできません。
- VOLSER 範囲で10進数が2か所以上使用されている場合は、あらゆる箇所が増分域として有効です。例:
 - A00B00 - 指定可能な最大範囲は A00B00 - A99B99。
 - A0B0CC - 指定可能な最大範囲は A0B0CC - A9B9CC。
 - 000XXX - 指定可能な最大範囲は 000XXX - 999XXX。

HSC 形式のアルファベットによる VOLSER 範囲 (vol-range) は、増分する1-6文字
のアルファベットを伴う2つのVOLSER要素で構成されます(例: 000AAA-000ZZZ
または 9AAA55-9ZZZ55)。この部分は増分域です。次の制限が適用されます。

- 増分部分の文字位置は2つの範囲要素で一致していなければなりません。
- 増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。
- 範囲要素の複数箇所を増分することはできません。最初の要素が111AAAの場合、2番目の要素で112AABと指定することはできません。
- VOLSER 範囲のアルファベット部分は、A-Zと定義されています。複数文字のシーケンスを増分する場合、個々の文字がZまで増分します。たとえば、ACZはAAA-AMM範囲内にあります。次の例を参照してください。

- A00A0-A99A0

VOLSER は A00A0 - A09A0 まで増分し、そのあと、A10A0 - A99A0 まで増分します。

- 9AA9A-9ZZ9A

VOLSER は 9AA9A - 9AZ9A まで増分し、そのあと 9BA9A - 9ZZ9A まで増分します。

- 111AAA-111ZZZ

VOLSER は 111AAA - 111AAZ まで増分し、そのあと 111ABA - 111ZZZ まで増分します

- 999AM8-999CM8

VOLSER は 999AM8 - 999AZ8 まで増分し、そのあと 999BA8 - 999CM8 まで増分します

- A3BZZ9-A3CDE9

VOLSER は A3BZZ9 - A3CAA9 まで増分し、そのあと A3CAB9 - A3CDE9 まで増分します

- AAAAAA-AAACCC

VOLSER は AAAAAA - AAAAAZ まで増分し、そのあと AAAABA - AAACCC まで増分します

- CCCN NN-DDDNNN

VOLSER は CCCNNN - CCCNNZ まで増分し、そのあと CCCNOA - DDDNNN まで増分します。これは非常に広い範囲になります。

アルファベットによる VOLSER 範囲のボリューム数は、VOLSER 範囲で使用する増分部分の要素数によって決定されます。各文字位置での A - Z 範囲のボリューム数は、増分対象のポジション数の 26 乗になります。

- A-Z は 26^1 (26) 個のボリュームと同じです。
- AA-ZZ は 26^2 (676) 個のボリュームと同じです。
- AAA-ZZZ は 26^3 (17,576) 個のボリュームと同じです。
- AAAA-ZZZZ は 26^4 (456,976) 個のボリュームと同じです。
- AAAAA-ZZZZZ は 26^5 (11,881,376) 個のボリュームと同じです。
- AAAAAA-ZZZZZZ は 26^6 (308,915,776) 個のボリュームと同じです。

ACSL S 形式の英数字の volser 範囲

ACSL S 形式の英数字の volser 範囲は、上記で指定された HSC 形式のボリュームパターン範囲に準拠する必要はありません。次の制限が適用されます。

- 範囲に指定する 2 つの volser の文字数は同じである必要があります。

- 範囲に指定する最初の volser 要素は、必ず 2 番目の volser 要素より小さくなくてはなりません。
- 指定した volser が 6 文字より短い場合、volser は空白で埋められた左揃えの 6 文字フィールドとして評価されます。
- ASCII 照合順序を使用して評価した場合に、最初の volser 要素よりも厳密に大きいか等しく、かつ 2 番目の volser 要素よりも厳密に小さいか等しい volser だけが、範囲内にあります。たとえば、volser 範囲 123456-234567 には volser 12345A が含まれます。

注記:

- 有効な HSC 形式の volser 範囲は、ACSL5 形式の volser 規則では常に有効です。ただし、有効な ACSLS 形式の volser 範囲が、HSC 形式の volser 規則で評価した場合には有効でないことがあります。
 - volser 範囲を受け入れる XCMD コマンドのほとんどでは、範囲は HSC の volser 規則に準拠している必要があります。どちらの形式の volser 範囲も受け入れるコマンドは XCMD SET POOL_Name コマンドだけです。
-

リスト

リストは、1 つまたは複数の要素で構成されます。複数の要素を指定する場合は、各要素をカンマまたは空白スペースで区切り、リスト全体を括弧で囲みます。

空白スペース

キーワードパラメータおよび値の区切りには、任意の数の空白スペースを使用できます。

第1章 概要

この章では、ACSL S への XAPI Client インタフェースの概要を示し、XAPI 対応 ACSLS サーバーをターゲットにしたコマンドの入力を可能にする XCMD インタフェースについて説明します。

ACSL S サーバーへの XAPI Client インタフェースとは

XML API (XAPI) は、StorageTek のクライアントとサーバーが、共通のプロトコルを使用して TCP/IP 経由で通信できるようにする Oracle の StorageTek API です。

この XAPI の導入によって、これまでは実際のテープ処理に MVS ベースのサーバー (Oracle の StorageTek Host Software Component) を使用する必要のあったクライアントが、次のように ACSLS (XAPI サポートに対応) を使用できるようになりました。

- MVS 上の SMC クライアントから、XAPI サポートに対応している ACSLS サーバーに実際のテープ要求を要求できるようになりました (MVS/CSC は必要ありません)。

詳細は、ELS ドキュメント『SMC の構成および管理』を参照してください。

- VM Client から、XAPI サポートに対応している ACSLS サーバーに実際のテープサービスを要求できるようになりました。

詳細は、ELS ドキュメント『VM Client インストール、構成、および管理ガイド』を参照してください。

XAPI サービスは ACSLS 8.4 以降のリリースでサポートされています。ACSL S XAPI サービスのインストールおよび構成の詳細については、『StorageTek ACSLS 8.4 インストールガイド』を参照してください。

XCMD インタフェースコンポーネントとは

ACSL S cmd_proc コンポーネントは、ACSL S システムおよび ACSLS によって制御されるライブラリをお客様が管理できるようにする、ACSL S のコマンド行インタフェースです。

cmd_proc の使用に関する詳細は、『*StorageTek Automated Cartridge System Library Software 管理者ガイド*』の「概要」の章を参照してください。XCMD コマンドは ACSLS cmd_proc の拡張です。ACSL S XAPI サーバーコンポーネントがインストールされアクティブになっている場合、ACSL S XAPI サーバーコンポーネントのユーザーはこのコマンドを使用して、既存の ACSLS cmd_proc コンポーネントから XAPI サーバーのユーザー要求および管理者要求を限られた数だけ入力できます。

ACSL S cmd_proc から XCMD コマンドを使用して入力できる XAPI サーバーコマンドについては、[3章「XCMD XAPI 構成および管理コマンド」](#)を参照してください。

ACSL S cmd_proc から XCMD コマンドを使用して入力できる XAPI オペレータコマンドについては、[4章「XCMD XAPI サーバーオペレータコマンド」](#)を参照してください。

さらに、SMC/MVS *Route* コマンドまたは VM/Client *Route* コマンドを使用して、XAPI サーバーオペレータコマンド、XCMD 構成および管理コマンド、および HSC/VTCS XAPI コマンドを MVS または VM ホストから発行できます。ただし、特定のパラメータの制限が適用されます。

サポートされている HSC/VTCS コマンドとその他の XAPI 要求、およびパラメータの制限については、[5章「XCMD での XAPI ユーザー要求と HSC/VTCS コマンドのサポート」](#)を参照してください。

第2章 XCMD コマンドの規則

SMC/MVS および VM/Client と XAPI 対応 ACSLS サーバーの間のクライアント/サーバーの対話の大部分は、エンドユーザーに対して透過的です。ボリューム情報、マウント、およびマウント解除の要求は、SMC/MVS および VM/Client によって自動的に生成され、オペレータの介入なしで処理されます。

これらの自動対話に加えて、XAPI を使用する ACSLS サーバーは、XAPI コンポーネントの管理を可能にする追加の管理者コマンド、構成コマンド、およびオペレータコマンドを提供します。

- XCMD XAPI サーバーの構成および管理コマンドについては、[3章「XCMD XAPI 構成および管理コマンド」](#)を参照してください。
- XCMD XAPI サーバーオペレータコマンドについては、[4章「XCMD XAPI サーバーオペレータコマンド」](#)を参照してください。

これらのコマンドは、ACSLS の基本インストールには含まれませんが、ACSLS XAPI コンポーネントをオプションでインストールすると使用可能になります。ACSLS および ACSLS XAPI コンポーネントのインストールについては、『*StorageTek Automated Cartridge System Library (ACSLS) インストールガイド*』を参照してください。

これらのコマンドを実行するには、ACSLS cmd_proc から発行する XCMD コマンド機能を使用します。このコマンドの一般的な構文は次のとおりです。

XCMD command

ここで、*command* は、このドキュメントに記載されている ACSLS XAPI コンポーネントのコマンドの 1 つです。

注記:

XCMD コマンド機能を使用して、ACSLS XAPI サーバーでサポートされている任意の XAPI ユーザー要求を発行することもできます。詳細は、[5章「XCMD での XAPI ユーザー要求と HSC/VTCS コマンドのサポート」](#)を参照してください。

ACSL5 cmd-proc から XCMD コマンドを発行するときは常に、次の規則が適用されます。

- XCMD は ACSLS コマンドプロンプトを使用しません。
- キーワードパラメータとその値を入力するときは、値の前に 1 つの空白文字を付加する必要があります。
- XCMD コマンドは大文字または小文字で入力できます。ACSL5 XAPI コンポーネントはコマンド入力をすべて自動的に大文字に変換します。たとえば、サブプール名「Testpool1」、「testpool1」、「TestPool1」、および「TESTPOOL1」はすべて、同じサブプール名「TESTPOOL1」に変換されます。

注記:

通常の ACSLS cmd_proc コマンドおよびパラメータは、通常は小文字で指定されます。vol_id (volser) を除き、小文字が自動的に大文字に変換されることはありません。

-
- XCMD パラメータ値の前に等号 (=) を付加することはできません。
 - XCMD の値を括弧で囲むことはできません。複数の値がサポートされている場合は、各値をカンマで区切ることができます。たとえば、複数のボリュームを照会するには、XCMD QUERY VOLUME(volser1,volser2) ではなく、XCMD QUERY VOLUME volser1,volser2 と入力します。

第3章 XCMD XAPI 構成および管理コマンド

この章では、XCMD でサポートされている XAPI 構成および管理コマンドについて説明します。これらのコマンドは、ACSL5 リリース 8.4 の ELS 互換ボリュームプール機能を有効にします。次のようなコマンドがサポートされています。

- [DEFINE POOL_Name](#)
- [DEFINE POOL_Access](#)
- [DELETE POOL_Name](#)
- [DELETE POOL_Access](#)
- [SET POOL_Name](#)
- [QUERY POOL_Name](#)
- [QUERY POOL_Access](#)

これらのコマンドは、ACSL5 user_proc から XCMD コマンドを使用して発行します。詳細は、2章「[XCMD コマンドの規則](#)」を参照してください。

次のコマンドセクションの構文フローダイアグラムで使用される規則については、「[構文規則](#)」を参照してください。

DEFINE POOL_Name

次のセクションでは、*DEFINE POOL_Name* コマンドについて説明します。

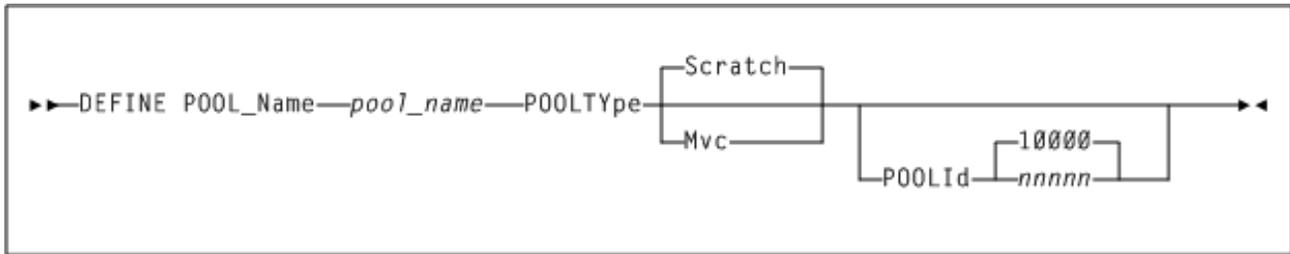
説明

DEFINE POOL_NAME コマンドは、ACSL5 プール ID にプールタイプとプール名を関連付けます。

構文

次の図は、*DEFINE POOL_Name* コマンドの構文を示しています。

図3.1 DEFINE POOL_Name コマンドの構文



パラメータ

図3.1「`DEFINE POOL_Name` コマンドの構文」に示すように、`DEFINE POOL_Name` コマンドには次のパラメータが含まれます。

pool_name

最大 13 文字のプール名。プール名には、パーセント記号 (%)、アンダースコア (_)、アスタリスク (*) を除き、任意の文字を含めることができます。

POOLType

プールのタイプ。Scratch (デフォルト) または Mvc です。

POOLId (nnnnn)

オプションで、プール ID (nnnnn) を指定します。

- このパラメータを指定する場合は、現在存在していないプール ID を指定する必要があります。
- このパラメータを指定しない場合は、10000 以降で最初の未使用の値がプール ID として自動的に割り当てられます。

例

次の例では、ユーザーは `DEFINE POOL_Name` コマンドを発行してスクラッチプール `SCRPOOL1` を定義します。

```
XCMD DEFINE POOL_NAME SCRPOOL1 POOLTYPE SCRATCH
```

DEFINE POOL_Access

次のセクションでは、`DEFINE POOL_Access` コマンドについて説明します。

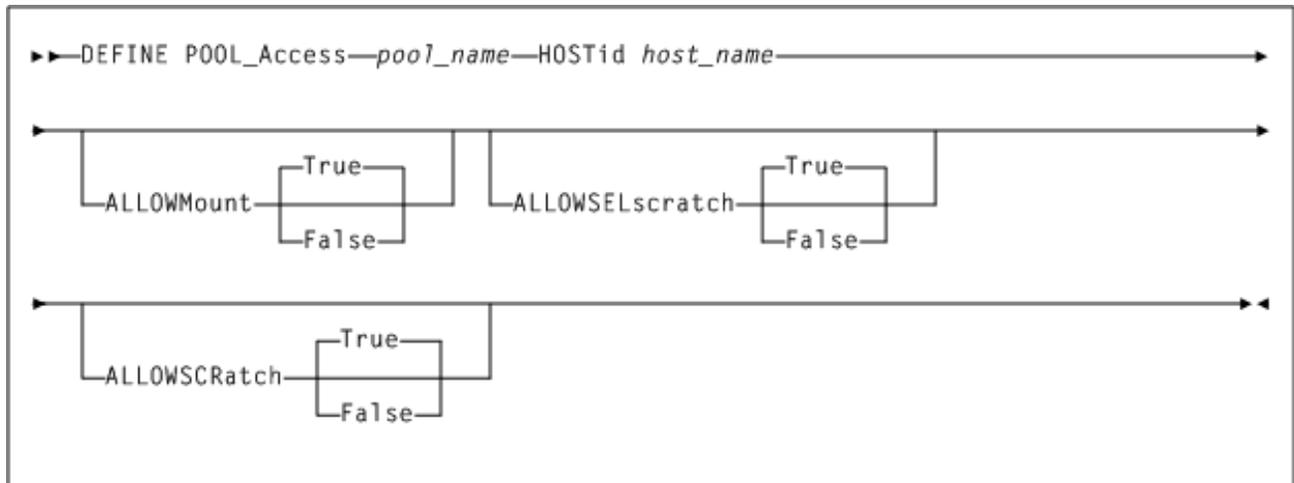
説明

`DEFINE POOL_Access` コマンドは、指定のホストに許可される *pool_name* へのアクセスを定義します。特定の *pool_name* に対してプールアクセスが定義されていない場合は、すべてのアクセスが許可されます。

構文

次の図は、`DEFINE POOL_Access` コマンドの構文を示しています。

図3.2 DEFINE POOL_Access コマンドの構文



パラメータ

図3.2「`DEFINE POOL_Access` コマンドの構文」に示すように、`DEFINE POOL_Access` コマンドには次のパラメータが含まれます。

pool_name

最大 13 文字のプール名。プール名には、パーセント記号 (%)、アンダースコア (_)、アスタリスク (*) を除き、任意の文字を含めることができます。指定する `pool_name` は、`DEFINE POOL_Name` コマンドを使用してプールタイプ `SCRATCH` で事前に定義されている必要があります (MVC プールに対してアクセスは定義されない)。詳細は、「`DEFINE POOL_Name`」を参照してください。

HOSTid host_name

最大 31 文字のホスト名を指定します。このパラメータは必須です。

指定する `HOSTid` は、インターネット完全修飾ドメイン名のホスト名の部分です。たとえば、完全修飾ドメイン名が `myhost.plus.domain.name` の場合、指定する `HOSTid` は `myhost` です。

ALLOWMount

オプションで、マウントアクセスを指定します。 `True` または `False` を指定できます。このパラメータは、`POOLTYPE MVC` として定義されているプールに対してのみ有効です。

ALLOWSELscratch

オプションで、スクラッチボリュームに対する XAPI コマンド `query_scr_mnt_info`、`sel_scratch`、および `mount` へのアクセスを指定します。 `True` ま

たは *False* を指定できます。このパラメータを指定しない場合は、デフォルトで *True* に設定されます。

このパラメータは、*POOLTYPE SCRATCH* として定義されているプールに対してのみ有効です。*MVC* として定義されているプールに対してこのパラメータを指定すると、パラメータは自動的にデフォルトの *False* になります。

ALLOWSCRatch

オプションで、スクラッチアクセスを指定します。*True* または *False* を指定できます。このパラメータを指定しない場合は、デフォルトで *True* に設定されます。

このパラメータは、*POOLTYPE SCRATCH* として定義されているプールに対してのみ有効です。*MVC* として定義されているプールに対してこのパラメータを指定すると、パラメータは自動的にデフォルトの *False* になります。

例

次の例では、ユーザーは *DEFINE POOL_Access* コマンドを発行して、スクラッチプール名 *SCRPOOL1* に対する設定アクセスを定義します。ここで、ホストは *PRODMVS* で、*ALLOWMOUNT* および *ALLOWSCRATCH* は *True* です。

```
XCMD DEFINE POOL_ACCESS SCRPOOL1 HOSTID PRODMVS ALLOWMOUNT TRUE  
ALLOWSCRATCH TRUE
```

DELETE POOL_Name

次のセクションでは、*DELETE POOL_Name* コマンドについて説明します。

説明

DELETE POOL_Name コマンドはプールを削除します。このコマンドは *ACSLS delete pool* コマンドに似ていますが、次の点が異なります。

- 入力では、プール *ID* の代わりにプール名を指定します。
- ユーザーは、プールに割り当てられているボリュームをプール 0 に割り当て直すこともできます。

ACSLS delete pool コマンドの詳細については、『*StorageTek Automated Cartridge System Library Software (ACSL) 管理者ガイド*』を参照してください。

構文

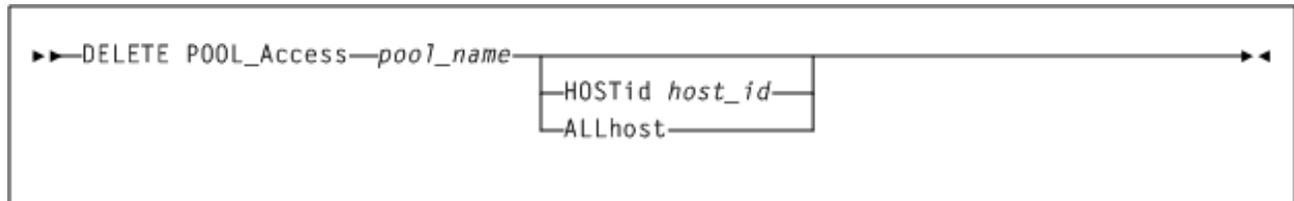
次の図は、*DELETE POOL_Name* コマンドの構文を示しています。

- *ALLhost* を指定すると、そのプールのプールアクセス規則がすべて削除されます。

構文

次の図は、*DELETE POOL_Access* コマンドの構文を示しています。

図3.4 *DELETE POOL_Access* コマンドの構文



パラメータ

図3.4「*DELETE POOL_Access* コマンドの構文」に示すように、*DELETE POOL_Access* コマンドには次のパラメータが含まれます。

pool_name

最大 13 文字のプール名。プール名には、パーセント記号 (%)、アンダースコア (_)、アスタリスク (*) を除き、任意の文字を含めることができます。指定する *pool_name* は、*DEFINE POOL_Name* コマンドを使用して事前に定義されている必要があります。詳細は、「*DEFINE POOL_Name*」を参照してください。

HOSTid host_name

オプションで、最大 31 文字のホスト名を指定し、このホスト ID のアクセス制限を削除する (ほかのホスト ID のアクセス規則は変更しない) ように指定します。このパラメータは *ALLhost* と一緒には指定できません。

ALLhost

オプションで、特定の *pool_name* に対するすべてのホスト ID のアクセス制限を削除するように指定します。このパラメータは *HOSTid* と一緒には指定できません。

例

次の例では、ユーザーは *DELETE POOL_Access* コマンドを発行して、ホスト *PRODMVS* から *SCRPOOL1* へのプールアクセスを削除します。

```
XCMD DELETE POOL_ACCESS SCRPOOL1 HOSTID PRODMVS
```

SET POOL_Name

次のセクションでは、*SET POOL_Name* コマンドについて説明します。

説明

`SET POOL_Name` コマンドは、プール名にボリュームを割り当てるか、プール名に低位境界値を設定します。

注記:

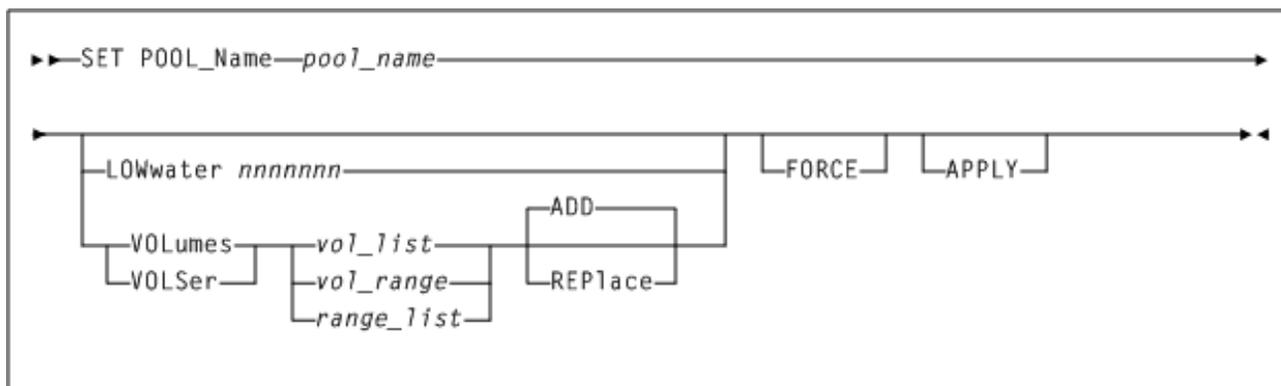
コマンド構文が有効な場合は、範囲内の一部のボリュームをプールに追加できない場合でも、指定したボリューム範囲がデータベースに追加されます。次のいずれかの条件に当てはまる場合、ボリュームはプールへの追加に不適格です。

- ボリュームが `LOCK` (ロックされた) 状態にある。
- `FORCE` が指定されていない場合に、ボリュームがすでに別のプールに含まれている。
- ボリュームが論理ライブラリに含まれている。
- ボリュームに ACSLS 所有者が存在し、アクセス制御が有効になっている。

構文

次の図は、`SET POOL_Name` コマンドの構文を示しています。

図3.5 SET POOL_Name コマンドの構文



パラメータ

図3.5「`SET POOL_Name` コマンドの構文」に示すように、`SET POOL_Name` コマンドには次のパラメータが含まれます。

pool_name

最大 13 文字のプール名。プール名には、パーセント記号 (%)、アンダースコア (_)、アスタリスク (*) を除き、任意の文字を含めることができます。指定する *pool_name* は、`DEFINE POOL_Name` コマンドを使用して事前に定義されている必要があります。詳細は、「`DELETE POOL_Name`」を参照してください。

LOWwater nnnnnnn

オプションで、プールに含まれている必要がある使用可能なボリュームの最小数を定義します。使用可能なボリュームの数が低位境界値を下回ると、ACSL Sシステムは警告メッセージを生成します。

VOLumes または VOLSer (volser-list、 volser-range、 range-list)

オプションで、volser のリスト、volser 範囲、または volser 範囲のリストを指定します。個別のボリュームまたは範囲を最大 16 個まで指定できます。

ボリューム範囲は ACSLS 形式の volser 範囲 (ASCII 照合順序) に従って評価されます。HSC ボリュームパターン範囲に準拠している必要はありません。ただし、1 つの範囲を表す 2 つのボリュームシリアル番号の文字数は同じである必要があります、それと同じ文字数のボリュームシリアル番号のみがその範囲内にあると見なされます。たとえば、1234-12356 という範囲は無効です。範囲 1234-2345 の場合、ボリュームシリアル番号 123567 は範囲内にあるとは見なされません。指定した範囲が有効な場合は、範囲内の一部のボリュームをプールに割り当てることができない場合でも、指定した範囲がデータベースに追加されます。指定するボリューム範囲は、既存のボリューム範囲に重複していないことと、相互に重複していないことが必要です。

ボリューム範囲は ACSLS 形式の volser 範囲に従って評価されます。

- 範囲に指定する 2 つの volser の文字数は同じである必要があります。
- 範囲に指定する最初の volser 要素は、必ず 2 番目の volser 要素より小さくなければなりません。
- 指定した volser が 6 文字より短い場合、volser は空白で埋められた左揃えの 6 文字フィールドとして評価されます。
- ASCII 照合順序を使用して評価した場合に、最初の volser 要素よりも厳密に大きいか等しく、かつ 2 番目の volser 要素よりも厳密に小さいか等しい volser だけが、範囲内にあります。たとえば、volser 範囲 123456-234567 には volser 12345A が含まれます。

指定した範囲が有効な場合は、範囲内の一部のボリュームをプールに割り当てることができない場合でも、指定した範囲が *pool_name* データベースに追加されます。指定するボリューム範囲は、既存のボリューム範囲に重複していないことと、相互に重複していないことが必要です。

ADD

指定のボリューム範囲をプールの既存の範囲に追加するように指定します。これはデフォルトです。指定する場合は、VOLumes も指定する必要があります。ADD は REPLace と一緒には指定できません。

パラメータ

図3.6「[QUERY POOL_Name コマンドの構文](#)」に示すように、*QUERY POOL_Name* コマンドには次のパラメータが含まれます。

pool_name

最大 13 文字の既存のプール名か、アスタリスク (*) 文字で終わる汎用名。このパラメータは必須です。

出力の表示は、*pool_name* の形式によって次のように異なります。

- *pool_name* が汎用名でない場合は、一致する 1 つのプールに定義されている *volser* および *volser* 範囲がプール情報に表示されます。
- *pool_name* が汎用名である (末尾に「*」がある) 場合は、一致するプールに定義されている *volser* および *volser* 範囲はプール情報に表示されません。

例

次の例では、ユーザーは *QUERY POOL_Name* コマンドを発行して、*pool1* に関する情報を表示します (関連付けられたボリューム範囲も含まれます)。

```
XCMD QUERY POOL_NAME POOL1
```

次の例では、ユーザーは *QUERY POOL_Name* を発行して、すべての名前付きプールに関する情報を表示します (ボリューム範囲は含まれません)。

```
XCMD QUERY POOL_NAME *
```

次の例では、ユーザーは *QUERY POOL_Name* コマンドを発行して、「A」で始まるすべてのプールに関する情報を表示します (ボリューム範囲は含まれません)。

```
XCMD QUERY POOL_NAME A*
```

QUERY POOL_Access

次のセクションでは、*QUERY POOL_Access* コマンドについて説明します。

説明

QUERY POOL_Access コマンドは、プール名に関連付けられた単一のホストまたはすべてのホストのプールアクセス規則を表示します。

第4章 XCMD XAPI サーバーオペレータコマンド

この章では、XCMD でサポートされている XAPI サーバーオペレータコマンドについて説明します。オペレータまたは管理者は、これらのコマンドを使用して ACSLS XAPI コンポーネントをモニターできます。次のようなコマンドがサポートされています。

- LOG
- LIST
- MSGLVL
- TRACE

これらのコマンドは、ACSLs user_proc から XCMD コマンドを使用して発行します。詳細は、2章「XCMD コマンドの規則」を参照してください。

次のコマンドセクションの構文フローダイアグラムで使用される規則については、「構文規則」を参照してください。

LOG

次のセクションでは、LOG コマンドについて説明します。

説明

LOG コマンドは、現在の XAPI サーバーのログ設定を変更または一覧表示します。

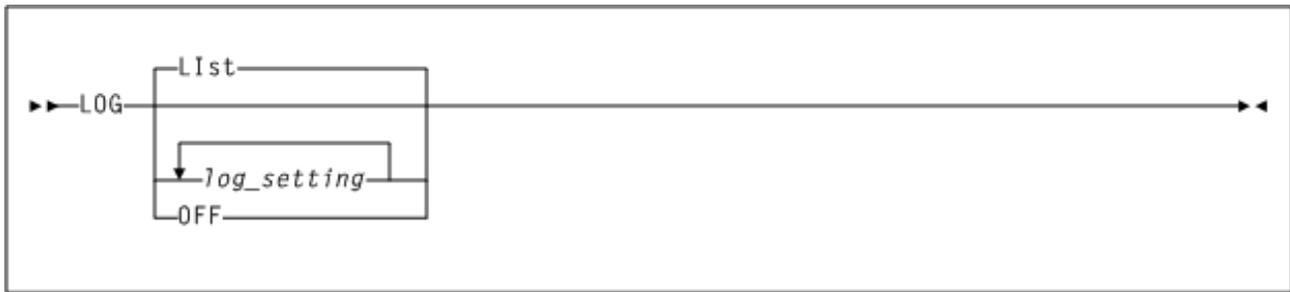
注記:

ログファイルの名前と場所は、ACSLs 環境変数によって設定され、デフォルトでは XAPI `_WORK_PATH` ディレクトリ内のファイル名 `vlog.file` に設定されます。

構文

次の図は、LOG コマンドの構文を示しています。

図4.1 LOG コマンドの構文



パラメータ

図4.1「LOG コマンドの構文」に示すように、LOG コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIst

オプションで、現在のログ設定を表示するように指定します。コマンドパラメータが指定されていない場合のデフォルトは *LIst* です。

log_setting

オプションで、目的のログ設定を「0」と「1」から成る一連の文字で指定します。

- 0 は、目的の定位置ログ設定を *OFF* (無効) にするように指定します。
- 1 は、目的の定位置ログ設定を *ON* (有効) にするように指定します。

指定した値によって現在のログ設定全体が置き換えられます。マージされるのではありません。定位置ログ設定は次のとおりです。

- 1 - ACSLS XAPI コンポーネントのログにエラーメッセージを記録します。
- 01 - ログファイルにメッセージを記録します。
- 001 - ログファイルに入力トランザクションエラーを記録します。
- 0001 - ログファイルにすべての XML *recv()* パケットを記録します。
- 00001 - ログファイルにすべての XML *send()* パケットを記録します。
- 000001 - ログファイルにローカルコマンドと応答を記録します。

XAPI LOG メッセージは *\$ACS_HOME/log/xapi/vlog.file* に保存されます。

注記:

LOG コマンドでは、現在定義されている上記の LOG 設定よりも多くの位置 (16) を 0 と 1 で設定および表示できます。これは将来の拡張を考慮したもので、余分な 0 または 1 の LOG 設定は単に無視されます。

OFF

オプションで、ロギングを無効にするように指定します。これは *LOG 0* と同等です。

例

次の例では、ユーザーは *LOG* コマンドを発行して、すべてのエラーおよびすべての XML *recv()* パケットをログファイルに記録するように XAPI サーバーを設定します。

```
XCMD LOG 1011
```

LIST

次のセクションでは、*LIST* コマンドについて説明します。

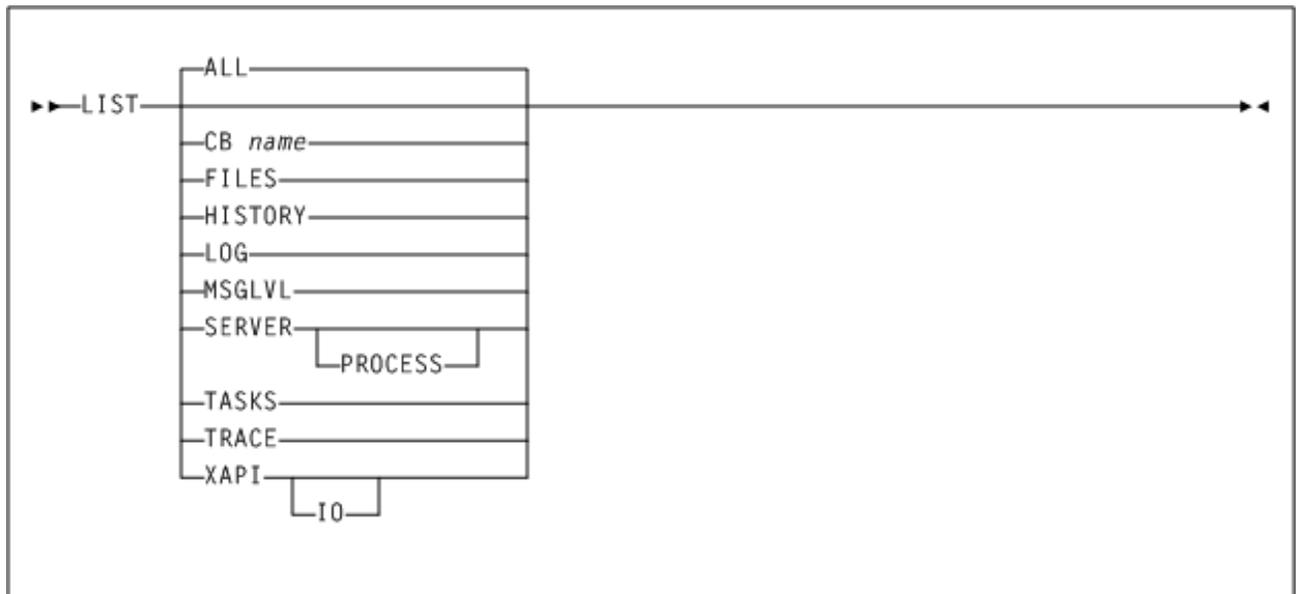
説明

LIST コマンドは、現在の XAPI サーバーのステータスおよび設定を一覧表示します。

構文

次の図は、*LIST* コマンドの構文を示しています。

図4.2 LIST コマンドの構文



パラメータ

図4.2「LIST コマンドの構文」に示すように、*LIST* コマンドには次のパラメータが含まれます。

ALL

オプションで、すべての XAPI サーバーのステータスおよび設定を表示します。これは、パラメータを指定せずに *LIST* コマンドを発行する場合のデフォルトです。

CB name

指定の制御ブロックを文字で表示するように指定し、文字の 16 進数形式を指定します。Oracle サポートの指示でのみ使用してください。

name には次の制御ブロックの 1 つを指定します。

- *HTTPCVT*
- *HTTPGBL*
- *HTTPREQ-nnn*
- *HTTPAPI-nnn*

LIST CB HTTPREQ および *LIST CB HTTPAPI* の場合は、0 から 999 の間のインデックスを指定する必要があります。さらに、インデックスと制御ブロック名の間を、スペースは入れずに 1 つのダッシュ (-) で区切る必要があります。例:

LIST HTTPREQ-0

または

LIST HTTPAPI-900

FILES

オプションで、XAPI サーバーの制御ファイル、ログファイル、およびトレースファイルのフルパス名を表示するように指定します。

HISTORY

オプションで、過去 24 時間の XAPI トランザクション数の履歴を表示するように指定します。

LOG

オプションで、現在の XAPI サーバーのログ設定を表示するように指定します。これは、パラメータを指定せずに *LOG* コマンドを発行することと同等です。

MSGLVL

オプションで、現在の XAPI サーバーのメッセージレベル設定を表示するように指定します。これは、パラメータを指定せずに *MSGLVL* コマンドを発行することと同等です。

SERVER

オプションで、現在の XAPI サーバーと UNIX のバージョン、関連パラメータと環境変数、および共有セグメントとメッセージキューを表示するように指定します。

オプションで、*PROCESS* キーワードを含めることにより、すべてのアクティブな XAPI サーバープロセス ID、スレッドおよび開いているファイルの数、CPU およびメモリーの使用量も表示するように要求できます。

PROCESS

SERVER とともに指定された場合、*PROCESS* キーワードは、すべてのアクティブな XAPI サーバープロセス ID、スレッドおよび開いているファイルの数、CPU およびメモリーの使用量も表示するように要求します。

TASKS

オプションで、現在の XAPI サーバーのシステムタスクおよび作業タスクを表示するように指定します。

TRACE

オプションで、現在の XAPI サーバーのトレース設定を表示するように指定します。これは、パラメータを指定せずに *TRACE* コマンドを発行することと同等です。

XAPI

オプションで、現在の XAPI サーバーのリスナーポートおよび IP アドレスを表示するように指定します。

オプションで、*IO* キーワードを含めることにより、すべての XAPI サーバーリスナーの統計情報も表示するように要求できます。

例

次の例では、ユーザーは *LIst* コマンドを発行して、現在の XAPI サーバーのリスナーポート、IP アドレス、およびリスナーのステータスを表示します。

```
XCMD LIST XAPI IO
```

MSGLVL

次のセクションでは、*MSGLVL* コマンドについて説明します。

説明

MSGLVL コマンドは、XAPI サーバーのメッセージの冗長度を変更または一覧表示します。

構文

次の図は、*MSGLVL* コマンドの構文を示しています。

図4.3 *MSGLVL* コマンドの構文



パラメータ

図4.3「*MSGLVL* コマンドの構文」に示すように、*MSGLVL* コマンドには次のパラメータが含まれます。

LIst

現在の *MSGLVL* 設定を表示するように指定します。コマンドパラメータが指定されていない場合のデフォルトは *LIst* です。

level

目的の *MSGLVL* 設定を指定します。レベルが高いほど、*XAPI* サーバーのメッセージングは冗長になります。メッセージレベルは累積されます。*MSGLVL 8* では、*MSGLVL 8* 以下のすべてのメッセージが生成されます (つまり、*MSGLVL 0* から *8* までが生成されます)。メッセージレベルの概要は次のとおりです。

- 0 - 通常の起動、停止、およびエラーメッセージ。これらのメッセージは抑制できません。
- 4 - 重大な警告メッセージ。
- 8 - マイナー警告メッセージ。
- 12 - 起動パラメータおよびオプションメッセージ。
- 16 - 追加の起動および停止メッセージ。
- 20 - 追加の診断レベル 20 メッセージ。
- 24 - 追加の診断レベル 24 メッセージ。
- 28 - 追加のタスク起動および停止メッセージ。

OFF

すべての冗長メッセージを無効にするように指定します。これは *MSGLVL 0* と同等です。

例

次の例では、ユーザーは `MSGLVL` コマンドを発行して、すべての警告メッセージを含めるように XAPI サーバーのメッセージングを変更します。

```
XCMD MSGLVL 8
```

TRACE

次のセクションでは、`TRACE` コマンドについて説明します。

説明

`TRACE` コマンドは、XAPI サーバーのトレース設定を変更または一覧表示します。

注記:

- ・トレースファイルの名前と場所は、ACSL5 環境変数によって設定され、デフォルトでは `DV_TAG_XAPI_WORK_PATH` 変数内のファイル名 `vtrace.file` に設定されます。
- ・トレースはシステムのパフォーマンスにかなり影響することがあります。Oracle StorageTek サポートから要求された場合のみトレースを ON にしてください。
- ・`TRACE` コマンドでは、現在定義されている上記の `TRACE` 設定よりも多くの位置 (16) を 0 と 1 で設定および表示できます。これは将来の拡張を考慮したもので、余分な 0 または 1 の `TRACE` 設定は単に無視されます。

構文

次の図は、`TRACE` コマンドの構文を示しています。

図4.4 TRACE コマンドの構文



パラメータ

図4.4「`TRACE` コマンドの構文」に示すように、`TRACE` コマンドには次のパラメータが含まれます。

List

オプションで、現在のトレース設定を表示するように指定します。コマンドパラメータが指定されていない場合のデフォルトは *List* です。

trace_setting

オプションで、目的のトレース設定を「0」と「1」から成る一連の文字で指定します。0は、目的の定位置トレース設定を *OFF* (無効) にするように指定します。1は、目的の定位置トレース設定を *ON* (有効) にするように指定します。指定した値によって現在のトレース設定全体が置き換えられます。マージされるものではありません。定位置トレース設定は次のとおりです。

- 1 - エラーを追跡してトレースファイルに書き込みます。
- 01 - TCP/IP の関数およびイベントを追跡してトレースファイルに書き込みます。
- 001 - PGMI または ACSAPI の関数およびイベントを追跡してトレースファイルに書き込みます。
- 0001 - 未分類の XAPI サーバーのイベントを追跡してトレースファイルに書き込みます。
- 00001 - malloc() および free() のイベントを追跡してトレースファイルに書き込みます。
- 000001 - XML パーサーのイベントを追跡してトレースファイルに書き込みます。
- 0000001 - コマンドサーバープロセスのイベントを追跡してトレースファイルに書き込みます。
- 00000001 - モニタープロセスのイベントを追跡してトレースファイルに書き込みます。
- 000000001 - CSV の関数およびイベントを追跡してトレースファイルに書き込みます。

OFF

オプションで、トレースを無効にするように指定します。これは *TRACE 0* と同等です。

例

次の例では、ユーザーは *TRACE* コマンドを発行して、すべてのエラーおよび malloc() と free() のすべてのイベントを追跡してトレースファイルに書き込むように XAPI サーバーを設定します。

```
XCMD TRACE 10001
```

第5章 XCMD での XAPI ユーザー要求と HSC/VTCS コマンドのサポート

3章「XCMD XAPI 構成および管理コマンド」で説明されている XAPI サーバーの構成および管理コマンド、4章「XCMD XAPI サーバーオペレータコマンド」で説明されている XAPI サーバーオペレータコマンドに加えて、XCMD インタフェースでは多くの XAPI ユーザー要求および互換性のある HSC/MVS テキストコマンドもサポートされています。

たとえば、ACSL user_proc から XCMD コマンドを使用して QUERY_VOLUME 要求を入力するには、次のようにします。

```
XCMD QUERY_VOLSER S00001
```

サポートされている XAPI 要求、コマンド、およびパラメータ

次の表は、XCMD でサポートされている XAPI 要求および対応する HSC/MVS テキストコマンドを示しています。

表5.1 XCMD でサポートされている XAPI 要求および対応する HSC/MVS コマンド

XAPI 要求	対応する HSC/MVS テキストコマンド
<i>DISMOUNT</i>	<i>DISMOUNT</i>
<i>EJECT</i>	<i>EJECT</i>
<i>MOUNT</i>	<i>MOUNT</i>
<i>MOVE</i>	<i>MOVE</i>
<i>QUERY_CAP</i>	<i>Display Cap</i>
<i>QUERY_DRIVES</i>	<i>Display DRives</i>
<i>QUERY_DRIVE_INFO</i>	<i>Display DRIVE_INFO</i>
<i>QUERY_LSM</i>	<i>Display Lsm</i>
<i>QUERY_SERVER</i>	対応する HSC/MVS テキストコマンドはありません

XAPI 要求	対応する HSC/MVS テキストコマンド
QUERY_SCRATCH	Display SCRatch
QUERY_THRESHOLD	Display THReshold
QUERY_VOLSER または QUERY_VOLUME	Display Volser
QUERY_VOLUME_INFO	Display VOLume_info
SCRATCH	SCRatch
UNSCRATCH	UNSCratch
VOLRPT ¹	VOLRpt

¹この VOLRPT は HSC 形式の VOLRPT コマンドおよびレポートです。ACSL S 形式の volrpt ではありません。

上記の HSC/MVS テキストコマンドについては、『ELS コマンド、制御文、およびユーティリティーリファレンス』を参照してください。

これらの要求およびコマンドがサポートされていますが、すべてのパラメータが ACSLS で有効なわけではありません。無効なパラメータは次のとおりです。

- DISMOUNT (または DISMount コマンド)

次を指定すると構文エラーになります。

- MVS デバイスアドレス形式 ccuu
- hostid 定位置パラメータ

- EJECT (または EJect コマンド)

次のパラメータを指定すると構文エラーになります。

- WAITCAP
- SEQ
- RECTECH

- MOUNT (または Mount コマンド)

次を指定すると構文エラーになります。

- MVS デバイスアドレス形式 ccuu
- hostid 定位置パラメータ
- MGMTCLAS パラメータは無効です

- *MOVE* (または *MOVE* コマンド)

すべてのパラメータがサポートされています。

- *QUERY_CAP* (または *Display Cap* コマンド)
 - すべてのパラメータがサポートされています。
- *QUERY_DRIVES* (または *Display DRives* コマンド)

次のパラメータを指定すると構文エラーになります。

- *ALL*
 - *IDLE*
 - *LIBRARY*
 - *DETAIL*
 - *IDENTITY*
 - *MEDIA*
 - *RECTECH*
 - *UNIT*
 - *BYDRIVE*
 - *BYLOC*
 - *SHOWLSLOT*
- *QUERY_DRIVE_INFO* (または *Display DRIVE_INFO* コマンド)

次のパラメータを指定すると構文エラーになります。

- *ALL*
 - *IDLE*
 - *LIBRARY*
 - *DETAIL*
 - *IDENTITY*
 - *MEDIA*
 - *RECTECH*
 - *VIRTUAL*
 - *DEVADDR*
 - *LSMLOC*
- *QUERY_LSM* (または *Display Lsm* コマンド)

すべてのパラメータがサポートされています。

- *QUERY_SERVER* (または *Display SERVER* コマンド)

すべてのパラメータがサポートされています。

- *QUERY_SCRATCH* (または *Display SCRatch* コマンド)

すべてのパラメータがサポートされています。

- *QUERY_THRESHOLD* (または *Display THReshold* コマンド)

すべてのパラメータがサポートされています。

- *QUERY_VOLSER* (または *Display Volser* コマンド)

すべてのパラメータがサポートされています。

- *QUERY_VOLUME_INFO* (または *Display VOLume_info* コマンド)

すべてのパラメータがサポートされています。

- *SCRATCH* (または *SCRatch* コマンド)

すべてのパラメータがサポートされています。

- *UNSCRATCH* (または *UNSCRatch* コマンド)

すべてのパラメータがサポートされています。

- *VOLRPT* (または *VOLRpt* コマンド)

次を指定すると構文エラーになります。

- *MEDEQUAL*
- *NONMEDEQ*
- *VAULT*

SMC または VM Client の Route コマンドを使用した ACSLS XAPI サーバーへのコマンド発行

EJECT または *VOLRpt* コマンドを除き、[表5.1「XCMD でサポートされている XAPI 要求および対応する HSC/MVS コマンド」](#) の HSC/MVS コマンドは、SMC/MVS クライアントまたは VM/Client から ACSLS XAPI サーバーに *Route* コマンドを使用して発行できます。

ACSLs cmd_proc から入力される *XCMD* コマンドとは異なり、SMC/MVS または VM/Client の *Route* コマンドでは、確立されている SMC/HSC 構文規則が尊重されます。また、*XCMD* トークンは省略されます。

例:

XAPI *QUERY VOLUME* 要求を ACSLS cmd_proc の *XCMD* コマンドとして発行するには、次のようにします。

```
XCMD QUERY VOLUME VOLSER
```

ここで、*VOLSER* は目的のボリュームです。

XAPI *QUERY VOLUME* 要求を SMC/MVS クライアントから ACSLS XAPI サーバーに *ROUTE* コマンドを使用して発行するには、次のようにします。

```
ROUTE ACSLS, QUERY VOLUME(volser)
```

ここで、*volser* は目的のボリュームです。

SMC *ROUTE* コマンドの詳細については、『*ELS* コマンド、制御文、およびユーティリティーリファレンス』を参照してください。

第6章 ACSLS XAPI サーバー制御変数

Oracle の ACSLS ソフトウェアでは、ACSL S システムの特定の動作を制御できる一連のシステム変数が提供されています。ACSL S XAPI サーバーコンポーネントに固有の制御変数がいくつか含まれています。このような変数には次のものがあります。

- [XAPI_PORT](#)
- [XAPI_WORK_PATH](#)
- [XAPI_LOG_SIZE](#)
- [XAPI_LOG_FILE_NUM](#)
- [XAPI_TRACE_SIZE](#)
- [XAPI_TRACE_FILE_NUM](#)
- [XAPI_STARTUP_FILE](#)
- [XAPI_TAPEPLEX_NAME](#)

ACSL S XAPI サーバー制御変数の設定

ACSL S の *acsss_config* または *dv_config* ユーティリティーを使用して、ACSL S XAPI の静的変数を表示および設定します。変更を有効にするには、ACSL S を再起動する必要があります。

- *dv_config* ユーティリティーを使用するには、次のいずれかのコマンドを入力します。
 - *dv_config -d* はすべての ACSLS 変数を表示します。
 - *dv_config -p <variable_name>* は XAPI 変数を更新します。
- *acsss_config* ユーティリティーを使用するには、ACSL S の *acsss_config* スクリプトを使用して「ACSL S Feature Configuration」画面にアクセスします。

ACSL S Feature Configuration

Please enter the number followed by Return for your choice from the following menu to configure product behavior in that area.

Press ? followed by the Return key for help.

- 1: Set CSI tuning variables
- 2: Set event logging variables
- 3: Set general product behavior variables
- 4: Set access control variables
- 5: Set automatic backup parameters
- 6: Rebuild Access Control information
- 7: Event Notification settings
- 8: Define or Change Library Configuration
- 9: Set XAPI server variables
- E: Exit

オプション9 (*Set XAPI server variables*) を選択します。

注記:

このオプションは ACSLS XAPI サーバー機能が有効になっている場合のみ表示されます。

acsss_config および *dv_config* ユーティリティーの詳細と、これらのユーティリティーを使用して ACSLS 変数を表示および更新する方法については、『*StorageTek Automated Cartridge System Library Software 管理者ガイド*』を参照してください。

ACSLX XAPI 変数の説明

このセクションでは、ACSLX XAPI サーバーコンポーネントの制御に使用される有効な変数について説明します。

XAPI_PORT

プロンプト: *Changes to the user-defined inbound port to the XAPI server will not take effect until the XAPI server is restarted. Port number used by the XAPI server to receive incoming XAPI requests. [50020]:*

このオプションは、クライアントからの受信 TCP リクエストに XAPI サーバーで使用されるポートを指定します。XAPI サーバーによって使用されるポートを定義す

る、1024 から 65535 の数値を入力します。ポート 50003 は指定しないでください。詳細は、『ACSLX セキュリティーガイド』を参照してください。

この変数を有効にするには、XAPI サーバーを再起動する必要があります。

XAPI_WORK_PATH

プロンプト: *Changes to the XAPI work directory will not take effect until the xapi server is restarted. Place the XAPI log and trace information in which directory. [\$ACS_HOME/log/xapi]*

XAPI サーバーの作業ファイルが置かれるディレクトリを選択します。インストールされると、XAPI サーバーは、`$ACS_HOME/log/xapi` ディレクトリに情報を記録します。通常の使用では、この変数の値は変更されません。`$ACS_HOME` が含まれているファイルシステムでディスク容量の問題がある場合は、代替パスを指定できます。指定するパスは絶対パス (たとえば、`/` または `$ACS_HOME` で始まるパス) にする必要があります。この変数を有効にするには、XAPI サーバーを再起動する必要があります。

XAPI_LOG_SIZE

プロンプト: *Changes to the XAPI log size will not take effect until the XAPI server is restarted. Maximum XAPI log size in Mbytes [20]:*

このオプションは、M バイト (ここでは「1048576 バイト」と定義) で表される、XAPI ログのしきい値サイズを指定します。負でない数を入力します。20 がこのオプションのデフォルト値です。

この変数を有効にするには、XAPI サーバーを再起動する必要があります。

XAPI_LOG_FILE_NUM

プロンプト: *Number of XAPI Log archive files to retain [10]:*

このオプションは、保持するアーカイブ XAPI ログファイルの数を指定します。

現在の `vlog.file` サイズがしきい値サイズを超えると、0 から `n` の接尾辞が付加されてログファイルの名前が変更されます。0 はもっとも新しいファイルで、`n` はもっとも古いファイルです。アーカイブファイルは、`XAPI_WORK_PATH` ディレクトリに保存されます。

指定された数のアーカイブログに達すると、新しいファイルがアーカイブディレクトリに追加されるごとにもっとも古いファイルがそのディレクトリから削除されます。1 つ以上 99 以下のアーカイブファイルを保持できます。

1 から 99 の数値を入力して、保持するアーカイブログファイルの数を指定します。

この変数を有効にするには、XAPI サーバーを再起動する必要があります。

XAPI_TRACE_SIZE

プロンプト: *Changes to the XAPI trace size will not take effect until the xapi server is restarted. Maximum XAPI trace size in Mbytes. [50]:*

このオプションは、M バイト (ここでは「1048576 バイト」と定義) で表される、XAPI トレースのしきい値サイズを指定します。負でない数を入力します。50 がこのオプションのデフォルト値です。

この変数を有効にするには、XAPI サーバーを再起動する必要があります。

XAPI_TRACE_FILE_NUM

プロンプト: *Number of XAPI Trace archive files to retain [10]:*

このオプションは、保持するアーカイブ XAPI トレースファイルの数を指定します。現在の `vtrace.file` サイズがしきい値サイズを超えると、0 から n の接尾辞が付加されてトレースファイルの名前が変更されます。0 はもっとも新しいファイルで、 n はもっとも古いファイルです。アーカイブファイルは、`XAPI_WORK_PATH` ディレクトリに保存されます。指定された数のアーカイブログに達すると、新しいファイルがアーカイブディレクトリに追加されるごとにもっとも古いファイルがそのディレクトリから削除されます。1 つ以上 99 以下のアーカイブファイルを保持できます。1 から 99 の数値を入力して、保持するアーカイブログファイルの数を指定します。

この変数を有効にするには、XAPI サーバーを再起動する必要があります。

XAPI_STARTUP_FILE

プロンプト: *Changes to the XAPI startup file name will not take effect until the xapi server is restarted. Name of the XAPI startup file with control parms [xapi_startup_file]*

このオプションは、XAPI 起動ファイルの名前を指定します。このファイルは、`XAPI_WORK_PATH` ディレクトリに存在し、XAPI 起動パラメータを含みます。

この変数を有効にするには、XAPI サーバーを再起動する必要があります。

XAPI_TAPEPLEX_NAME

プロンプト: *Changes to the XAPI Tapeplex name will not take effect until the xapi server is restarted. Name of the XAPI Tapeplex []:*

このオプションは、XAPI Tapeplex の名前を指定します。長さが 8 文字を超えないテキストを入力してください。この変数を有効にするには、XAPI サーバーを再起動する必要があります。

索引

...

概要, 17

管理コマンド, 21

規則、コマンド, 19

構成コマンド, 21

構文

DEFINE POOL_Access コマンド, 23

DEFINE POOL_Name コマンド, 21

DELETE POOL_Access コマンド, 26

DELETE POOL_Name コマンド, 24

LOG コマンド, 33, 35

MSGLVL コマンド, 38

QUERY POOL_Access コマンド, 31

QUERY POOL_Name コマンド, 29

SET POOL_Name コマンド, 27

TRACE コマンド, 39

説明

ACSLS サーバーへの XAPI Client インタ
フェース, 17

XCMD インタフェースコンポーネント, 18

変数、ACSLS, 47

例

DEFINE POOL_Access, 22, 24

DELETE POOL_Access コマンド, 26

DELETE POOL_Name コマンド, 25

LOG コマンド, 35, 37

MSGLVL コマンド, 39

QUERY POOL_Access コマンド, 31

QUERY POOL_Name コマンド, 30

Route コマンド, 45

SET POOL_Name, 29

TRACE コマンド, 40

あ

オペレータコマンド, 33

か

コマンド

DEFINE POOL_Name, 21

DEFINE POOL_Access, 22

DELETE POOL_Name, 24

DELETE POOL_Access, 25

LIST, 35

LOG, 33

MSGLVL, 37

QUERY POOL_Name, 29

QUERY POOL_Access, 30

SET POOL_Name, 26

TRACE, 39

XAPI サーバーオペレータコマンド, 33

XAPI 構成および管理コマンド, 21

コマンドの規則, 19

コマンドの入力

ACSLS cmd-proc から, 19

SMC または VM Client の Route コマンドの使
用, 44

A

ACSLS XAPI 制御変数, 47

D

DEFINE POOL_Access コマンド, 22

DEFINE POOL_Name コマンド, 21

DELETE POOL_Access コマンド, 25

DELETE POOL_Name コマンド, 24

L

LIST コマンド, 35

LOG コマンド, 33

M

MSGLVL コマンド, 37

Q

QUERY POOL_Access コマンド, 30

QUERY POOL_Name コマンド, 29

S

SET POOL_Name コマンド, 26

T

TRACE コマンド, 39

